

アドミッション・ポリシー

食物栄養専攻では、次のような人を求めます。

- ・ 専門科目を学ぶために必要な「生物」「家庭」の基礎的な内容を理解している人【知識・技能】
- ・ コミュニケーションの基礎となる「国語力」を身につけている人【知識・技能】
- ・ 栄養士に求められる「計算能力」を身につけている人【知識・技能】
- ・ 食と栄養及び健康に関する課題を探求し、解決、発信して社会に貢献するための基礎的能力を有する人【思考力・判断力・表現力等】
- ・ 栄養士としての将来像をもち、周囲の人と協力して積極的に学修に取り組む意欲のある人【主体性・多様性・協働性】

カリキュラム・ポリシー

栄養士の資格規定科目は、栄養士法等の法令に準拠して、食物栄養専攻の教育目的を達成するために系統的カリキュラムを編成します。
 ・食・栄養の専門家として食文化の知識、食品開発及び食企画等の能力を有する人材になるため、食に関する視野を広げることができるフードスペシャリスト・フードコーディネーターの資格取得も可能です。
 ・一部に履修制限の科目を設け、講義、実験・実習を系統的に組み合わせ、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを積極的に取り入れています。
 ・外部の標準化されたテストによる評価を取り入れています。

●：必修科目 □：校外実習の履修制限に関わる科目、【】：教育課程外

令和6年度入学生 食物栄養専攻履修系統図

科目区分	卒業時の学修成果(到達目標)	科目区分ごとの学修・教育目標	1年前学期	1年後学期	2年前学期	2年後学期
			栄養士としての自覚をもち、専門基礎知識を身につける	身につけた知識を活用し、日常生活を含めて実践に活かす	各領域を結びつけて栄養士としての実践力を高める	社会で活躍する栄養士としての実践力を身につける
社会生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食と栄養及び健康の知識と、高度な調理技術を伴った食事提供ができる栄養士になる。【知識・技能】 ・食と栄養及び健康に関する情報を的確に判断し、食を通して社会に役立つ栄養士になる。【思考力・判断力・表現力等】 ・他者に対する配慮と豊かなコミュニケーションを身につけた栄養士になる。【主体性・多様性・協働性】 	社会や環境と健康との関係がわかる。			公衆衛生学	●社会福祉概論
人体の構造と機能		人体の構造・機能を理解した上で、「栄養、運動、休養」の3点から健康を捉えることができる。	解剖生理学Ⅰ	解剖生理学Ⅱ ●生化学		解剖生理学実験 運動生理学
食品と衛生		食品成分の特性や人体に対する影響及び評価、食の安全がわかる。	●食品学総論 ●食品学各論 ●食品材料学実験	●食品衛生学 食品衛生学実験	●食品科学実験	
栄養と健康		栄養・代謝を理解し、対象者の身体状況や栄養状態に合った献立作成及び調理ができる。	●基礎栄養学	●応用栄養学Ⅰ 臨床栄養学	●応用栄養学Ⅱ 応用栄養学実習Ⅰ 臨床栄養学実習	応用栄養学実習Ⅱ
栄養の指導		栄養行政を理解した上で、個人・集団や地域に合った食・栄養指導ができる。			栄養指導論Ⅰ 栄養指導論実習Ⅰ 公衆栄養学	栄養指導論Ⅱ 栄養指導論実習Ⅱ
給食の運営		調理理論と確かな技術を身につけて、給食の運営ができる。	●調理学 ●調理学実験 基礎調理学実習 給食計画・実務論Ⅰ 給食計画・実務論実習Ⅰ	●調理学実習Ⅰ 給食計画・実務論Ⅱ 給食計画・実務論実習Ⅱ	●調理学実習Ⅱ 校外実習(事前指導)	校外実習 校外実習(事後指導)
フードスペシャリスト・フードコーディネーターその他の科目		豊かな「食」をプロデュースできる栄養士になる。	フードスペシャリスト論 (FS) 食文化論 (FC) パティシエ実習Ⅰ 【アスリートフードマイスター】	フードコーディネーター論 (FS) フードデザイン・マネジメント論 (FC) 【介護職員初任者研修】	食品の官能評価・鑑別論 (FS) フードマーケティング論 (FS) フードブランニング論 (FC) フードコーディネーター実習 (FC) パティシエ実習Ⅱ 【アスリートフードマイスター】	食品加工学実習 (フードスペシャリスト試験対策講座) 栄養士実力養成演習 【介護職員初任者研修】
卒業演習		学修成果と豊かなコミュニケーション能力を高め、栄養士としての専門性を活かせるようになる。				●フィールドワーク演習

入学

卒業

ディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得することによって、以下の能力を身につけた学生について卒業を認定し、学位を授与します。

- ・ 食と栄養及び健康と調理の高度な知識・技術を有し、社会・家庭で活かせる能力【知識・技能】
- ・ 食と栄養及び健康に関する課題を発見し、解決・発信できる能力【思考力・判断力・表現力等】
- ・ 多様性の受容と適切なコミュニケーションをもって積極的に社会貢献できる能力【主体性・多様性・協働性】

卒業後

教育目的

人々の健康の維持増進に寄与する食の専門知識と実践力を備えた有能な社会人、かつ、健全な家庭人の育成